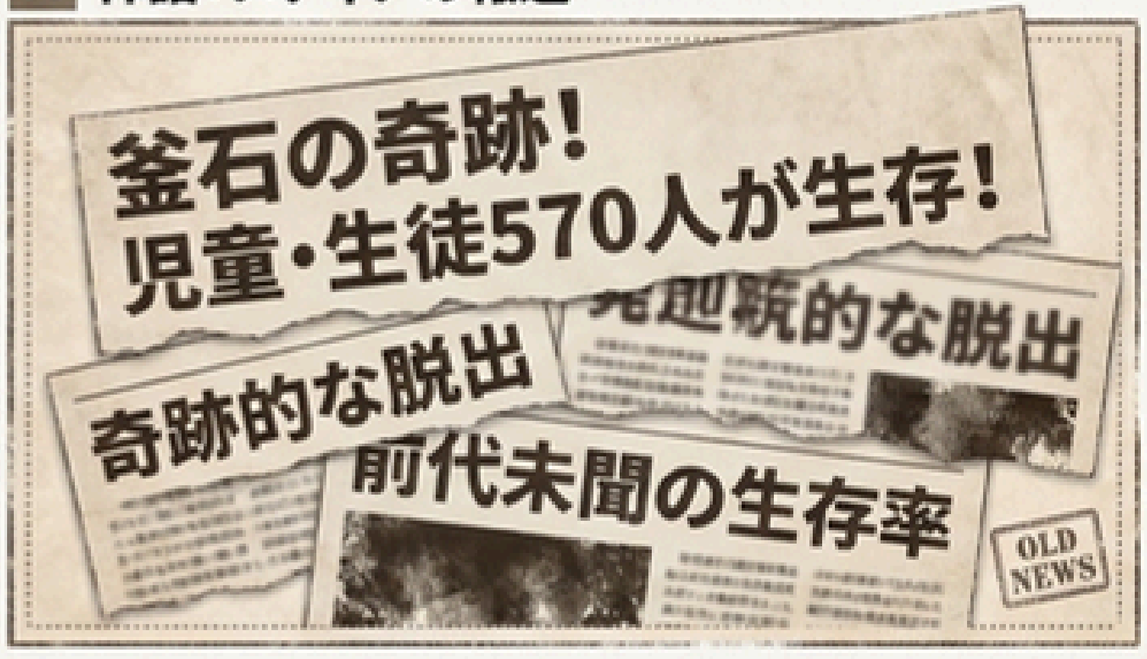


Gemini Notebook

生存の設計図：奇跡の神話を解体する

A 神話：メディアの報道



B 現実：生存者の証言



【事実】釜石東中学校と鵜住居小学校の児童・生徒、生存率99.8%。

【教訓】生き残ったのは偶然ではない。彼らは「生き延びる技術」を学び、自ら実行した。

→ 実践的な防災教育の成果 → 「率先避難者」の育成と実践 → 主体的な行動と判断力



0分：想定外の事態と、最初の決断

【状況】
大津波警報発令。しかし停電で校内放送は鳴らない。

さらに、中学校はハザードマップの「浸水想定区域外（安全地帯）」。

【行動】
教師の指示を待たず、部活中の中学生が「津波が来る！逃げろ！」と叫びながら校庭へ駆け出した。

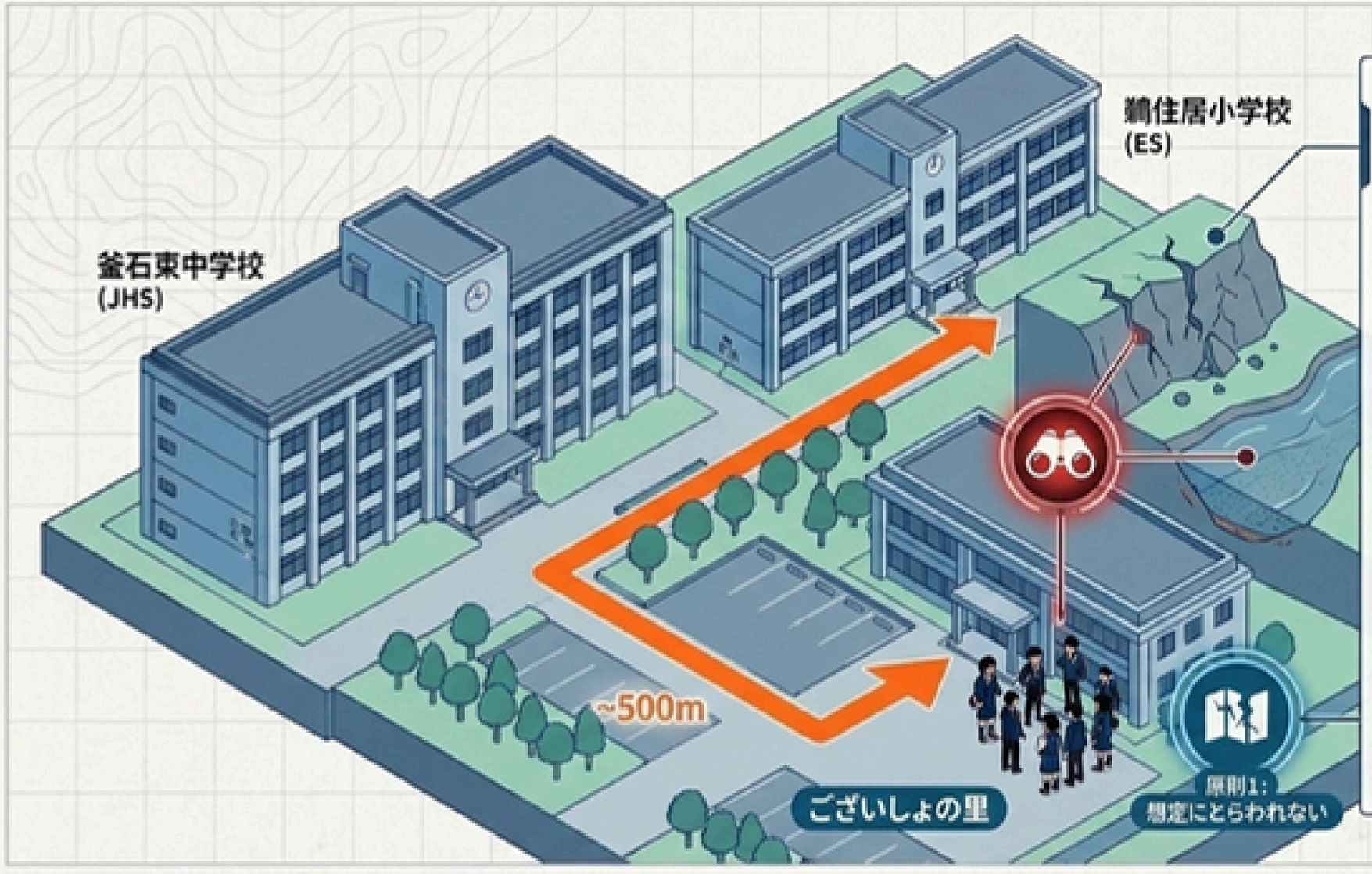
地震発生直後

「巻き込みの力」：なぜあなたの行動が命を救うのか



【心理】人は非常時、「自分は大丈夫」と思い込む（正常性バイアス）。しかし、中学生が本気で逃げる姿が、大人たちや小学生のバイアスを破壊する最強の「警報」となった。

【結論】自分が真っ先に逃げること＝他人の命を救うこと。



10分：到着、しかし安全ではない

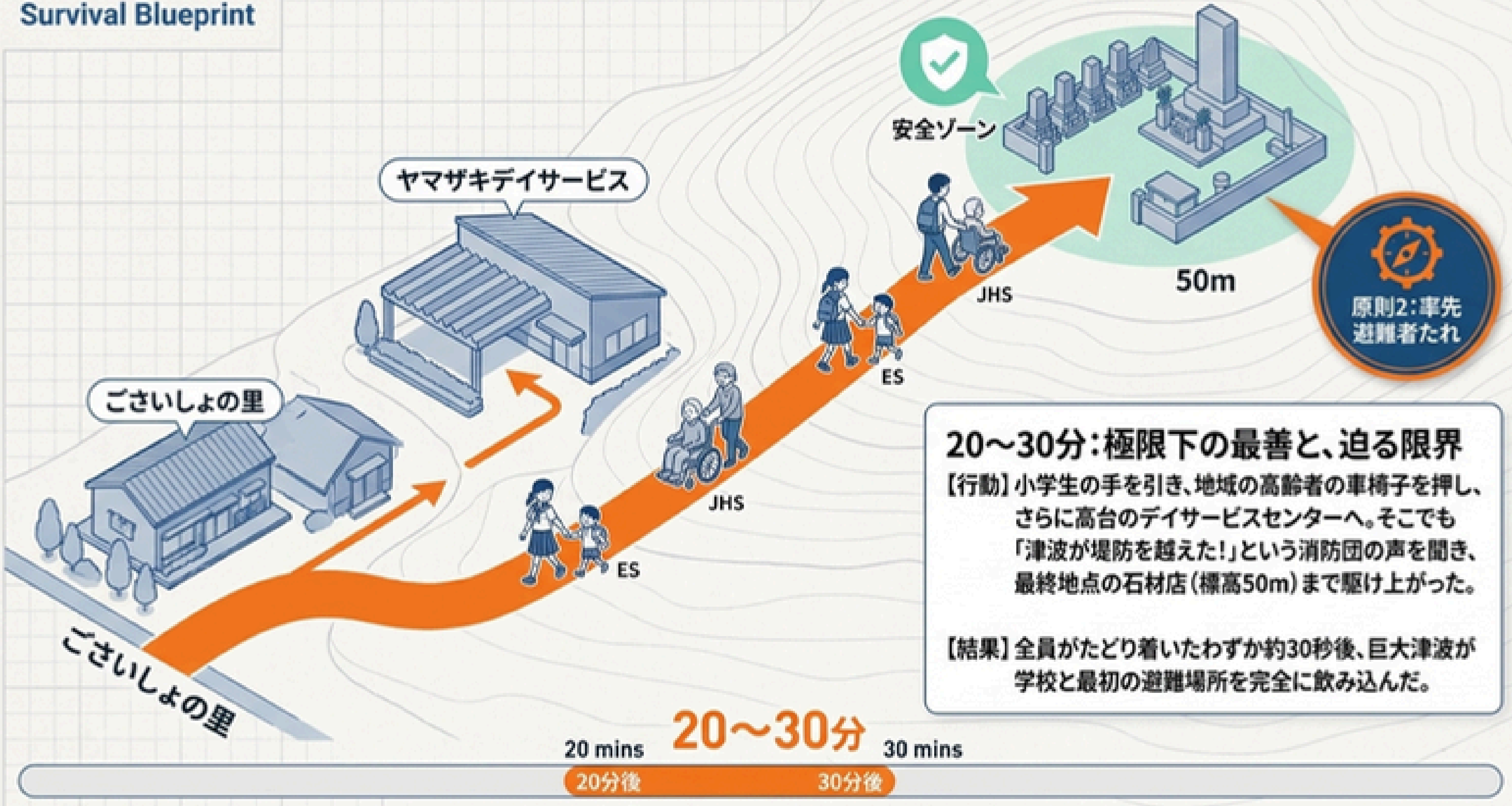
【状況】
第一避難場所「ございしょの里」に到着。点呼が始まる。

【観察と決断】
生徒たちは裏山の「崖が崩れかけている」こと、そして川の水が異常に引いている（大津波の前兆）ことに気づく。

「ここは危ない、もっと上へ！」と教師に進言し、再び走り出す。

地震発生直後 — 10分後 — 10分後

Survival Blueprint



20～30分：極限下の最善と、迫る限界

【行動】小学生の手を引き、地域の高齢者の車椅子を押し、さらに高台のデイサービスセンターへ。そこでも「津波が堤防を越えた！」という消防団の声を聞き、最終地点の石材店（標高50m）まで駆け上がった。

【結果】全員がたどり着いたわずか約30秒後、巨大津波が学校と最初の避難場所を完全に飲み込んだ。

Gemini Notebook

なぜ、自ら考え動くことができたのか？（日常の備え）



EAST-Rescue

助けられる側から、助ける側へ。
中学生は地域を助ける戦力としての
自覚を持っていた。

津波てんでんこ

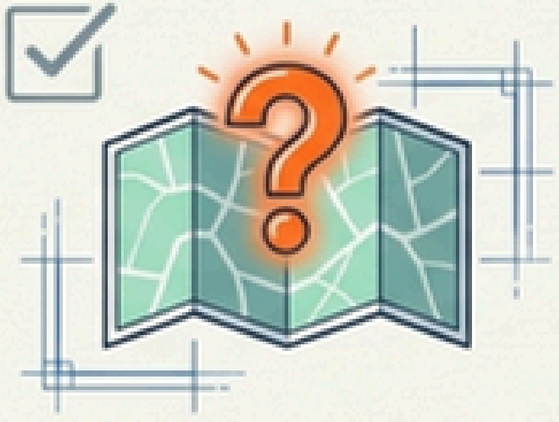
「家族を構わず、各自バラバラに逃げろ。
必ず後で会える」。先人から受け継いだ、
信頼に基づく非情で美しいルール。

想定外を意図した訓練

教師がわざと生徒を隠し、「点呼で人が
足りない」状況を作るなど、常に生徒に
「自ら判断させる」訓練を繰り返していた。

Gemini Notebook

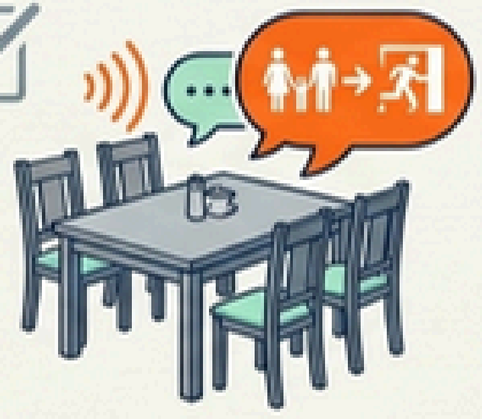
今日からできる「率先避難者」への3ステップ



1. 疑う (Doubt)

地元のハザードマップを確認せよ。しかし「もし想定より20%大きかったら、次はどこへ逃げるか？」を常に考えておく。

Decision Node



2. 話す (Talk)

今夜、家族に宣言しよう。「地震が起きたら、私はあなたを待たずに逃げる。だからあなたも絶対に逃げて。○○で会おう」と。（現代のてんでんこ）

Decision Node



3. 動く (Move)

訓練でも本番でも、誰よりも早く「逃げろ！」と叫んで走り出すこと。あなたの声と背中が、周囲の魔法を解く。

Decision Node

SURVIVAL BLUEPRINT

Gemini Notebook

次は、「あびなん」の番だ。



奇跡を起こした彼らは、今のあなたと同じ中学生・高校生だった。
地域の中で、最も体力があり、最も早く思考できるのはあなたたちだ。

災害時、大人は恐怖（正常性バイアス）で固まるかもしれない。
その時、避難のエンジンになれるのは、あびなん生、あなたしかいない。